



福祉人材センター × 介護福祉士会

ふくし・かいご通信

2023
1月
No. 16



発行：社会福祉法人北海道社会福祉協議会
北海道福祉人材センター ☎011-272-6662

北海道福祉人材センター
HPリンク

北海道福祉人材センターでは、一般社団法人北海道介護福祉士会の協力を得て、福祉・介護に関する基礎知識や日常に役立つ情報を定期的に発行しています。

今月は… 私のかいごストーリー

一般社団法人北海道介護福祉士会 副会長 酒井 賢一 氏
(株式会社そよかぜ 専務取締役)



無資格、無経験で、思いがけず始まった私の介護ストーリー、33年前の物語の始まりをお話ししますね。

高校生の3年間、スポーツや音楽、生徒会活動など、色々やりたいことをやっていた青春時代ですが、ただ一つだけやらなかったことは肝心の勉強です。進学希望だったのにその目標に向かっていない自分がありました。次々と仲間が進路を定めていく中、自分は自分の進む道が見えず、焦りと不安の中でどんどん自信がなくなり諦めるように進学から就職に人生の舵を切りました。

自分の未来予想図がまったく描けていないまま、描くことすら思いつきもしないまま社会人になりました。初めて就職したのはケーキ屋さんです。パティシエを目指していたわけでもなく、ただ先輩が就職していたのと、アルバイトでご縁があったからという理由だけです。でも、オーナーパティシエは私を育てようとあれこれと教えてくれるのです。だけど私にはその動機づけがないので、その一つひとつの事をできるようにしようという気持ちは湧かず、いつ辞めようかとそればかり考えていました。

ここから自分探しの人生の旅が始まります。それは随分と格好いい言い方ですね。実際はただ彷徨うだけの、転職の繰り返しの始まりです。営業職、トラックの運転手、フォークリフトのオペレーター等々、様々な仕事をしました。目指すところがないままの船出では、当然のように漂流して座礁するのです。

唯一、自分を律することができたのは、自ら仕事をして、お給料を得て、自分の生きることと生活することの糧を自分で生み出すという考えでした。これは父と母の背中を見て学び得たことです。この生きる基本が自分にあったことが、何よりの土台だったと今思います。

様々な転職は私の経験の積み重ねになりました。でも、それは自分の考え方です。きっと間違いなく、社会はそれを経験と認めてくれないだろう。仕事の履歴が多ければ多いほど、それは経験を重ねたことではなく、また仕事を辞めるかもしれないと思われる実績になっているのだろう

とっていました。そう思うたびに自分に自信がなくなり、自分を否定していました。

余程こんな私を心配したのか、ご近所のお世話になっている方が私に声をかけてくれました。「賢ちゃん、この町に老人ホームとデイサービスができるんだよ。あんた優しいんだから（試験）受けてみないかい？」

ちょうどその頃は営業の仕事をしていた頃で、ノルマに追われ仕事がうまくいかず、また辞めたいなと思っていたところだったので。

福祉？介護？…自分にとっては全く描いてもいない仕事です。ただ、全く描いていない仕事だけど、福祉や介護のイメージは何となく描けました。職員の募集要項を見ると、施設長以外の職種がそこに並んでいました。「介護員」「看護師」「栄養士」「調理員」等、どれも自分には出来ない仕事ばかりです。その当時の私が履歴書に書ける資格は普通自動車と大型2種自動車の免許だけです。よくよく見るとその私が一つだけできそうな仕事がありました。それは「デイサービスの運転手」です。

いつも皆がニコニコしていて優しく、ノルマもなければ転勤もない、お給料は安定しているかな…、そんな福祉や介護の仕事のイメージが頭に浮かびました。だけど、デイサービスの運転手では応募できませんでした。なぜなら、免許を持っているだけで、送迎するバスの運転の経験がないからです。

やっぱりまた駄目か…とっていると、「介助員なら応募を受け付ける」という話です。介助員は介護員の業務をサポートする仕事内容だと説明を受けました。「それならできるか？」そんな安易な考えで応募をして、そんな自分が運よく採用となったのです。



33年前の4月、私の介護のキャリアが始まりました。真新しい施設の玄関に、ご入居者様のご家族と一緒に沢山の荷物を抱えて入ってきます。介助員の私は、大勢の介護員の後ろでお出迎えをしていました。お出迎えが一段落したところで、介護主任が介護員に指示を出します。「おむつ交換に行きますよ」との合図とともに介護員が一斉に仕事に向かいます。

「介助員は何をするのかな？」とっていると、介護主任が私にこう声を掛けるのです。「酒井君、おむつ交換に行きますよ」私は自分が介護員ではなく介助員だと主張しました。だけど介護主任はこう言います。「介護も介助も関係ない。あなたもおむつ交換に行きますよ…これはあなたの仕事なの」

転職を繰り返した自分だけど、仕事をする意味は分かっていました。だから「これはあなたの仕事だ」と言われて、何か覚悟が決まった感じを今も覚えています。

介護主任が行うおむつ交換の隣のベッドで、私にとって初めての介護業務を行いました。33年前の介護現場…カーテンは閉めないでおむつ交換をしていました。私は介護主任のお手本を見ながら、恐る恐るおむつ交換を始めました。

介護主任のお手本を見ながら…と言いましたが、素人の私でも、おむつが何のためにあって、どこに装着されていて、どのように交換するのかは想像がつかしました。その想像と介護主任のお手本を横目に見ながらおむつ交換を進めました。

初めてののおむつ交換は寝たきりのおばあ様です。とっても痩せていて体に触れるだけで怪我をさせてしまうのではないかとドキドキする程です。認知症なのでお話しも辻褄が合いません。私は挨拶とおむつ交換をすることを伝えて始めました。

たどたどしい手つきでおむつカバーを外し、ゆっくりと布おむつを開きました。そこには排尿と排便がありました。「どうしたらいい？」そう思うと同時に「何とかキレイにしなきゃ」と思いました。それはとても当たり前なことです。自分だったらこの状況はただただ不快だし、キレイ

になれば当然快適で安心です。これは教えられなくてもこれまで人として生きてきて分かることです。とにかく一生懸命キレイにしようと清拭しました。だけど、どれだけ拭いてもキレイにならない。どれだけの時間をそうしていたか分かりません。隣のベッドでおむつ交換をしている介護主任はもう終わるところです。「次に向かわなければ…」そう思うと、すっかりキレイに出来ないまま、たどたどしい手つきでキレイなおむつに交換しました。

おむつ交換を終えると私は自然とおばあ様に謝りました。とても中途半端な仕事をしたと思うからです。すると、掛けたタオルケットの中でおばあ様の右手が動いていて、私の方を見て何か言っているのです。手を出したいのかな？どうしたのかな？…手が出るだけ私はタオルケットを剥ぎました。おばあ様は少し曲がり気味の右手を挙げて、少し曲がった掌を自分の額の辺りまで持ってきて、何かを言っているのです。私は身体を屈め、耳を近づけてみました。

「兄さんありがとう…。兄さん済まない…。」何度も何度もそう言うのです。

私はとても嬉しかったです。嬉しいという言葉では言い表すことのでき

ない気持ちになりました。社会に出て働いて、上手く行かなければ転職を繰り返して、自分は社会に適応できなくて誰からも認められない人間だと思っていたから、その承認はまっすぐ自分の心に届いてきました。「ありがとう」という言葉の意味が本当に分かった感じがしました。

ですが、それは私の気持ちの半分で感じたこと…。もう半分は、こんな中途半端なおむつ交換をして申し訳ないという気持ちです。これだけの感謝を向けられるだけの仕事をしていないのに感謝を向けてくれることが、本当に申し訳ない気持ちだったのです。

そして、この初日にもう一つ感じたことがありました。ご入居者様もご家族様も何度も何度も私たちに「ありがとう」の言葉を伝えてくれたことです。私たちが何かをする度に「ありがとう」という感謝の気持ちを向けてくれるのです。社会に出ていくつかの仕事をしてきて、これだけ「ありがとう」を向けてくれる仕事は、私は初めてでした。

こんな気持ちになる仕事が世の中にあるんだ…ということと、この仕事はしっかりやらなければ…という、入り混じった気持ちの中で、私の介護の仕事は始まったのです。

心理学に「好意の互惠性」とか「好意の返報性」という原理があります。この原理は、人は好意を向けられると相手に好意を返したくなる。この好意のやり取りでお互いの関係性がより良く深まるという考え方です。

初めてのおむつ交換を終えた後、私に向けられた「ありがとう」の気持ち、これまで関わった多くのご入居者様やご家族から向けられる「ありがとう」の気持ちに、私は応えようとし続けて今があると思っています。そしてまだ、その「ありがとう」に応えられていない私もいます。



もっと応えられる人であり、介護福祉士であるために、これまでも、今も、これからも、もっともっと学んで、もっともっと経験して、介護の専門性で貢献し続けることが、私の使命なのです。

私にとっての介護と介護の仕事の価値と意味はここにあるのです。



次回は、「介護のワンポイント」です。



一般社団法人北海道介護福祉士会

介護福祉士の職業倫理の向上、介護に関する知識技術・
経験を深めて資質向上を図り、北海道の福祉の推進に
寄与している団体です。 ★ 新入会員募集中 ★

TEL&FAX 011-222-5200



北海道介護福祉士会
HPリンク

北海道福祉人材センターでは、令和5年3月5日（日）に
R4年度福祉のしごと就職フェアを開催します！



ご不明な点は、お気軽にお問合わせください。

発行：北海道福祉人材センター TEL011-272-6662